

スギ・ヒノキのエリートツリー

■エリートツリー等(特定母樹)とは

成長が1.5倍以上(CO₂吸収5割増し)、花粉量が半分以下、幹が通直等の優れた特徴を持ち、農林水産大臣により認定された品種。主に、森林総研などが開発。

⇒下刈り回数の削減や伐期短縮(50年→30年)により、**造林コストが低減。日本林業の切り札!**

■林野庁の試算・計画

- 再造林の推進により、**2030年の造林面積は約7万ha/年**(現状3万ha)を見込む
- エリートツリー等の割合を**2030年までに3割、2050年までに9割以上**を目指す
- エリートツリー等の種穂や苗木について、都道府県を跨ぐ広域での流通が重要



林リン子とエリート・ホジュ太
(林野庁HPより)



■日本製紙の取組み

エリートツリーの増殖・生産に関わる「**特定増殖事業者**」の認定を各地で取得(長年の海外植林事業を活用)。エリートツリー苗木の生産を地元生産者と連携して進め、社有林(全国約9万ha)の再植林で利用するほか、外販も行うことで、**エリートツリーの普及を後押しする**。大手民間企業によるエリートツリー量産は当社が初。

■日本製紙の苗木生産の特徴

- **生産期間が半年~1年**(通常2年以上)
- 一般的な温室で生産(地域により屋外可)
- 独立型コンテナを開発。培土もオリジナル
- **活着に優れ、初期成長が良い**(根鉢に特徴)
- 九州では花粉量1%以下のエリートスギを生産
- **地元生産者との協業による生産**
(コンテナ・培土を提供、苗木は全量買取り)
- 販売は種苗組合等を通し、既存商流を維持
- 各自治体とも緊密に連携



スギの育苗風景

(1)



当社苗
(1年生)



一般苗
(2年生)

■エリートツリー種子・穂木の生産体制

- 全国7区域のスギ種苗配布区域のうち、**4ヶ所の区域でエリートツリーの採種園・採穂園の整備に着手**。
- 2016年12月から熊本県(6区)でスギエリートツリーの大規模採穂園を造成し、苗木生産を開始。
2022年からは大分県(6区)でも採穂園を整備し、生産規模の拡大を行う。
- 本州では、2022年より静岡(3区)、鳥取(4区)、広島北部(4区)、広島南部(5区)に**閉鎖型採種園を造成**。
→閉鎖型採種園とすることで、エリートツリー同士の確実な交配を行う(開放型では7割が外来花粉コンタミ)

エリートツリー苗木のサンプル提供について(2023年1月より)

エリートスギ(挿し木苗)・・・九州全域

エリートスギ(実生苗)・・・3区内(宮城・福島・栃木・茨城・群馬・埼玉・東京・千葉・神奈川・長野・山梨・静岡・岐阜・愛知)

他地区、エリートヒノキは
2024年より順次開始

5区内(滋賀・三重・岐阜・大阪・和歌山・香川・徳島・愛媛・高知・兵庫南部・広島南部・山口)は**要相談**



■エリートツリー生産者の募集！(既存の種苗生産者・新規参入)

日本製紙では、**地元生産者の方々と協業体制を構築**して、苗木生産に取り組んでいます。
エリートツリーの「種子・幼苗・穂木」や「資材(育苗コンテナ、培土)」はご提供するため、**初期投資が要りません**。
生産に当たっては、技術マニュアルに沿って、**当社研究員と一緒に作業**を行います。また、残苗の心配もありません。
育苗中も**遠隔管理システムを駆使**して、各地の生産状況を見守るので、早期のトラブル対応が可能です。



当社研究員

地元生産者との苗木生産の様子
～丁寧な対応で生産者を支援します～

